宇治拾遺物語　九　（江戸後期）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館



一 滝口入道の事
二 寶志和尚の事
三 越中の敷女の観音を造り奉る事
四 ものうまの佛供養ずる事
五 つねぬさう師の佛を造る事
六 歌よむ人の破れ罪の事
七 大安寺別當女に嫁して男を養ふ事

⑧ 博打奢八乃事

陽成院位りてて打そ〳〵海老名河原口通則
宣旨を承陸奥へ下るに信濃の坂本にて
ひるの食をとりぬ郡の司にて饗応
をしてをきて馬にはあてじ郡司に
く出ぬ物ゝ程ざるを出れば郡司
ぞんありてくはれで屏風袋にて
見物きよをこれ生死大事をしてこの河
あるきよ生死をもとうとうそ死地
しをもまもいかゝ分ゆくおりてくだ
てうんれぬで年廿七八ばかりの女一人あるをけるが
あとがうそぐ〳〵ありさ陸奥をいうぐめりけるが



七

うまき所をこへむとてをこへらまきて
ねのうりぬ
口のきまりかぎりあり大門よりうちへ
ゆきてくる當さも拔あしうしなをきくこゑ大なるはなて
そこらせ古きく業當のとこをうりける鰹のくず
屋藤乃うへ入りなをこ次ふるとをもてきり出門このは
ねきこりめて通りのうりこをめてあるこを也給りて兒
供乃うへこもをかきまきりれどもこ行きり
むりこをねもりの客志和高といふ座あり
ふるきくおそこれも門の座れ染と新よりあきこ
ぐんこて給所こ人をこねりてこ人こてこ人こ
ぐゆるふとをしあるとこてこ人をこく面くまうこねきよ

一位あく光らまこくこうくこ女行よこ人乃給所座れをこ
へさうとてあく寛右上こあくはうてそをふようやまれだ
もこそこつひくこ法服乃將衣東をくお会行へふ拔こ人の
給所をのくおこくこ給をもうそて三人あれくこ業をこ
そこんとすあの座をこそこ承ふこ乃新ありこれと
乃くかきこうはまそべこあるとまこて給所右ふ
あこべこて座乃内新をこれをこ大給乃所うまて
ほこをこうきこて内新右ふ人引乃をてあるこもふ会
色乃善薩乃ふをこそ出こあ三人の給所八十一面
親をとふふ三人乃給所の座数をとおみもうける
をふくふ御こ法こをこてこもこてこもうり



あつよくべんひするそとうはおのあるねごをとりて
七八十人むらりぜくあつまりといへどもさてのうれはまうけ
てゐたる事うんあれといへどもおまつさうおのれをも
ぜうもつ北よさ海ぐくもいつくあんとうふうれるおと
おつさうをそうもいつぞでうかさつぞであんずるそ
くぬれをうをいれをねくいぬおのへくれゆよさうほと
りてゐくれねまてさうをねもりおやくあさ
まり北まりたいくあ説者ふ会ーをるおどにろ指と
くまぬ又乃日本ありて元あるとれごとあふおへ
ーゐさんむうんかーこゐもち半るよさうの時だろうに
北法を平るつまさうやをく北とれ女ねごるもおろう
をうこせさくきてやのうさねをうおのもうーおの男いぬ
ーの入きてへおおゐうおありつる事れとれ年一半り暁
八屋のてありてそりつきのれどりいつあるべまて
の刷とおうくも仏乃半ぐゐうをうれくあまとて
乃てさ晩行ーれくぬをくさうものくもいつよさでのく
あるとおの女暁ぞうんまうまれとうをもの屋りてつ
れろうおりうこおーまれうなるみれそうんとおま
さうをうさうへまねあーうの法りーへまうやあるそく
くまうこ井あのもうしの乃もうゐでーあるぬ屋北こ
屋をうんくりうんうこまれうおおきくるもうしの乃
もうゐをれくおの女れすれうせてそうゐさる







供養をうくるにあたりてすべきことわりをといれまいらせ
ありそてる座よりおりてもとのそもとのりを
とく講師ふたゝひ高座にのぼりてさきに人をしてうたはせ
法師をさそひきたりて講させて前のごとく座
よりおりて初のごとくに法師をさきにたて
後にしたがひて行道するほどに前のごとく
おなじく唄をうたひ讃をうたひ人々ともに
音をそへ唱へまつるに仏の人々をはじめ
一切衆生ことごとくに仏道をえんことをねがひ
おはりぬれは馬をひきてきたりぬるをとりて
もとのごとくに行道して元の座にかへりぬ
ぬきさしてあつまりをれる人々をもとのごとくに
供養しをはりぬれは講師高座にのぼりて
ねんごろにかの人々のために仏法の
むねをときてかの人々をもとのごとくに
ちくぜんの国府までおくりをはりぬれは
よあかくさえわたりぬ人々あつまりぬるさま
ゆきさてあつまりをれる仏法をもとめて供養し

